



April, 2011

日本原生動物学会会報 (No. 20)

URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/jsproto/>

第44回大会(奈良)のご案内(第1報)

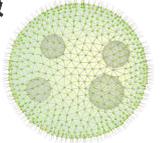
第43回大会(水戸)報告

日本分類学会連合 総会・シンポジウム報告

原生動物学関連の学会開催情報

若手の会 通信

事務局からのお知らせ



編集部からのお知らせ

このたびの東日本大震災で被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心より祈念申し上げます。このたびのNewsletter電子媒体化に伴い、記事内のURLや電子メールアドレスにハイパーリンクを設定致しました。該当箇所は“青字+青下線”で記しています。クリックするだけでリンク先への移動が可能です。ぜひご利用ください(震災の影響で、一部のリンクは一時的に無効となっております)。

日本原生動物学会 編集委員一同

第44回 日本原生動物学会大会(奈良)のご案内(第1報)

大会長 春本 晃江(奈良女子大学 理学部)

第44回日本原生動物学会大会は、以下の要領で開催する予定です。奈良市での開催は、第7回、第25回に続き3回目です。紅葉の美しい季節に、鹿のたわむれるキャンパスで、ゆったりとした時間を過ごしてみませんか。

- 1. 会期** 2011年11月11日(金)～11月13日(日)
11日(金): 若手の会, 評議員会, 若手の会・評議員会合同懇親会
12日(土): 一般講演, 総会, 学会賞・奨励賞授賞式, 学会賞受賞者講演, 懇親会
13日(日): 一般講演, 稲葉文枝先生 生誕100周年記念シンポジウム
- 2. 会場** 奈良女子大学 S218 講義室, 記念館 (奈良女子大学ホームページ: <http://www.nara-wu.ac.jp/>)
- 3. 発表** 液晶プロジェクターを用いた口頭発表, およびポスター発表。
発表演題数により, 発表方法の変更をお願いする場合があります。
- 4. 申し込み** 参加と発表の申し込み締切は, **2011年9月30日(金)**です。
詳細は次号のニューズレターでお知らせします。
- 5. 大会参加費等** 大会参加費, 懇親会費は, **当日受付にて**お支払いください。
大会参加費: 一般会員 3,000円 学生会員 1,000円
懇親会費: 一般会員 5,000円 学生会員 3,000円
- 6. 宿泊** 近鉄奈良駅や三条通り, JR奈良駅周辺に各種ホテルがありますので, 各自でご予約ください。
大学周辺にもホテルがありますが, 詳細は第2報でお知らせします。
- 7. アクセス** 京都からは, 近鉄京都線で近鉄奈良駅下車, 徒歩5分。
大阪からは, JR大阪環状線(外回り)で鶴橋へ, 近鉄奈良線で近鉄奈良駅下車。
新大阪からは, JR東海道本線で大阪へ, JR大阪環状線(外回り)で鶴橋へ, 近鉄奈良線で近鉄奈良駅下車。
関西国際空港と大阪空港からは, 近鉄奈良駅まで空港バスが出ています。
- 8. 大会事務局** 〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学理学部生物学科
第44回日本原生動物学会 大会事務局 春本 晃江
Tel&Fax: 0742-20-3421 E-mail: harumoto@cc.nara-wu.ac.jp

なお, 会期中は本学の一時預かり施設「ならっこルーム」を利用して託児を行います(有料)。詳細は事務局までお問い合わせください。会場からは, 東大寺や奈良公園が徒歩圏内にあります。京都からも, 大阪からも, 神戸からもアクセスのよい奈良での大会へ, どうぞ奮ってご参加ください。



奈良女子大学正門(国重要文化財)から
記念館(国重要文化財)を望む

第43回 日本原生動物学会大会（水戸） 報告

大会長 三輪 五十二（茨城大学 理学部）

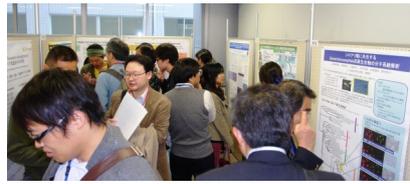
日本原生動物学会の第43回大会は2010年11月5日から7日までの3日間、茨城大学理学部（水戸市）で開かれました。水戸で開催するのは13年前の第30回大会に次いで2度目になります。参加費納入参加者は90名で、39題の一般講演（口頭発表21題、ポスター発表18題）と学会賞受賞者講演・奨励賞受賞者発表、公開シンポジウム、および関連集会として若手の会ワークショップと若手の会勉強会が行われました。



今大会は、2日目を公開シンポジウムに当てたため、一般講演は全て1日目に行うこととなり、口頭発表は発表10分、質疑応答2分と大変短くなってしまいました。若手研究者の発表に対するBest Presentation Award (BPA) は今年で3年目となり、一般講演39題中34題がBPA対象講演でした。これは全体の87%に当たり、昨年以上に若手研究者の活躍が目立つ大会になりました。若手研究者の発表には斬新でユニークな発想の研究が多く見受けられ甲乙を付けることが困難でしたが、その中から十数名の審査員によって選ばれたBPAには、芝野郁美氏（京都大学大学院 理学研究科）の「細胞性粘菌における種間認識機構の解析」と武内史英氏（情報通信研究機構 神戸研究所 未来ICT研究センター）の「繊毛虫テトラヒメナの核分化過程における核膜孔複合体のダイナミクス」が輝きました。



一般講演会場



ポスター発表会場



BPA 授賞 芝野 郁美氏 BPA 授賞 武内 史英氏



学会賞は6年間「受賞者なし」が続いていましたが、今年度は岩本政明氏（情報通信研究機構 神戸研究所 未来ICT研究センター）が受賞しました。総会の後に「テトラヒメナの大核と小核の核膜孔複合体タンパク質の研究—繊毛虫が2核を使い分ける仕組みの解明に向けて—」という受賞者講演をしていただきました。奨励賞は保科亮氏（立命館大学 生命科学部）が受賞し、「ミドリゾウリムシ共生藻の分類学的研究」というタイトルでポスター発表をしていただきました。



学会賞受賞 岩本 政明氏



奨励賞受賞 保科 陵氏



懇親会 藤島 政博 学会長による挨拶

2日目は公開シンポジウム「生物の共生機構を考える」～三輪五十二教授の定年を記念して～を開催しました。イントロダクションを細谷浩史氏（広島大学大学院 理学研究科）が行いました。第1部「シロアリと消化管内鞭毛虫との共生」（座長 藤島政博氏）では、北出理氏（茨城大学 理学部）の「シロアリと腸内共生鞭毛虫との共生」と本郷裕一氏（東京工業大学大学院 生命理工学研究科）の「シロアリ腸内共生鞭毛虫と細胞共生する細菌の多様性と機能」の講演がありました。シロアリの腸内鞭毛虫群集の構造と、高度に進化したシロアリ腸内多重共生システムが最新の研究に基づいて討論されました。第2部「ミドリゾウリムシにおける細胞内共生」（座長 今村信孝氏）では、細谷浩史氏、ソチホン氏（神戸大学大学院 理学研究科）、洲崎敏伸氏（神戸大学大学院 理学研究科）、児玉有紀氏（高知大学 理学部）、三輪五十二（茨城大学 理学部）の講演がありました。ミドリゾウリムシと共生クロレラとの関係を基に、共生藻の増殖調節機構、ミトコンドリアとのダイナミクス、細胞内共生成立機構、共生の概日リズムへの影響などが討論されました。茨城大学学長にも挨拶をいただきました。会場には一般市民や高校生も多数参加しており、シロアリやミドリゾウリムシの共生研究の面白さが伝わったものと思います。原生動物の面白さや研究内容を広く市民に伝えていくことも必要な活動かと思えます。

会場のプロジェクターの性能が悪く発表者の皆さんにご迷惑をおかけしたことは、前もってチェックしておくべきこととして反省しております。懇親会は水戸市のシンボルタワーの下にある水戸芸術館内のレストランで行いましたが、91名もの方に参加していただき、おいしい料理とお酒で十分に楽しんでいただけたものと思います。

最後に、大会を開催するに当たり、会員の皆様から多数のアドバイスと力強い応援を頂き、事務局一同、心より感謝しております。次回の大会は奈良女子大学で行われますが、益々活気にあふれ、自由な討論が出来る大会になりますよう、会員の皆様のご協力をお願い致します。



公開シンポジウム「生物の共生機構を考える」

日本分類学会連合 総会報告

第10回日本分類学会連合 公開シンポジウム「分類学, そして生物多様性科学の将来を考える」報告 生物多様性会議委員 島野 智之 (宮城教育大学 教育学部)

第10回日本分類学会連合総会は、国立科学博物館新宿分館 研修研究館講堂にて、2011年 1月 8日 (土) 10:30-12:30に開催され、下記の報告と審議がなされた。日本原生動物学会からは、藤島正博 (会長) と島野智之 (生物多様性会議委員) が出席した。

第10回日本分類学会連合公開シンポジウム (共催 (独) 国立科学博物館) は同会場にて、2011年 1月 8日 (土) - 9日 (日) の2日間に渡って開催され、盛会のうちに無事終了した。詳細は日本分類学会連合のホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ujsb/>) をご確認ください。

1月 8日 (土) 13:30-17:30 シンポジウム1「日本の分類学の現状と展望」

1月 9日 (日) 10:00-15:00 シンポジウム2「遺伝子で記述する生活史形質の多様性」

日本分類学会連合総会 2011年 1月 8日

・代表挨拶 (東京大学 伊藤元己 代表)

・報告事項

資料参照: 1. 2010年度の活動 (GBIFへの拠出金を継続していただけるように日本政府へ要請), 2. ニュースレター, 3. ホームページ, 4. データベース, 5. メーリングリスト

・審議事項

(審議事項1) 2011年度広報出版委員会委員の選出 委員長 佐々木猛智 先生 (東京大学総合研究博物館)。なお、友国雅章 先生 (国立科学博物館) の退職により川田伸一郎 先生 (国立科学博物館) が選出された。

(審議事項2) 2010年度決算 9,500円ほどの赤字であるが、特別会計と監査報告も含めて了承された。

(審議事項3) 2011年度事業計画

3-1 2011年第10回公開シンポジウムの開催

3-2 2012年第11回公開シンポジウムの開催 開催地は関東。企画について3月末頃を目途に公募するので各学会から提案して欲しい。

3-3 ニュースレター 19号, 20号

3-4 ホームページ NIIのサーバ停止に伴い、対策を検討し継続審議とした。参加各学会でも民間のサーバに乗り換えることを検討しているようである (数千円/年)。

3-5 データベース 自然史系博物館の標本データベースに分類学会連合としても協力していく。来年度の種名リストデータベースの初版の発行を目指す。

3-6 その他

(審議事項4) 2011年度予算

2011年度の支出の合計を50万円とする。39万円の収入なので、11万円の赤字となる予定 (特別会計の繰越金がかかりある)。

2011年度も各学会からの会費は10,000円とした。

(審議事項5) その他

学会の公益法人化などについて議論した。これに関連する要望を分類学会連合に依頼したいときには、各学会から事務局まで連絡をいただきたい。関連情報について連合内で共有できるようにしたい。COP10で高まった気運をしばませないように、今後取り組んでいきたい (GB03, 環境省の報告書等)。次のターゲットなど、生息域に関して生物多様性観測を行っていく) についても配慮していただきたい。

(詳細は日本原生動物学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsproto/> に掲載)

参考:

・GB03 (Review of draft Global Biodiversity Outlook-3) <http://www.cbd.int/gbo3review/>

生物多様性総合評価の結果等について (GB03公表) <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/jbo/jbo/index.html>

・2011年から2020年が、国連「生物多様性の10年」と定められました。

生物多様性条約第10回締約国会議の結果については、下記の環境省のサイトに掲載されているところですが、この成果のひとつとして、「生物多様性の10年」が国連によって定められました。日本の自然保全関連のNGOネットワークの提案を日本政府が受け取り、日本政府から生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) を通じて提案したものです。国連は、2011年から2020年を「生物多様性の10年」と位置付け、国際社会が協力して生態系保全に取り組むことを2010年12月に採択しました。 環境省 <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=13104>

原生動物学関連の学会開催情報

第5回 日本進化原生生物学研究会 (JSEP) 日時: 2011年 6月11日 (土) ~12日 (日)

会場: 富山大学 詳細: 大会HP (<http://square.umin.ac.jp/jsep/2011taikai.html>)

2011年 FASEB 織毛虫分子生物学会議 (2011 FASEB Ciliate Molecular Biology Conference) 日時: 2011年 7月10日 (日) ~15日 (金)

会場: ギリシャ Kolymvari, Orthodox Academy of Crete 詳細: (<https://secure.faseb.org/faseb/meetings/Summrconf/Programs/11791.pdf>)

第6回 欧州原生生物学会議 (VI European Congress of Protistology) 日時: 2011年 7月25日 (月) ~29日 (金)

会場: ドイツ Berlin, Freie universität 詳細: 大会HP (<http://www.ecop2011.org/welcome.html>)

第8回 アジア織毛虫生物学 & 第1回アジア原生生物学会議 日時: 2011年10月 3日 (月) ~ 5日 (水)

会場: 韓国 Jeju 連絡先: Dr. Joong Ki Choi (E-mail: jkchoi@inha.ac.kr)



「若手の会の活動を振り返って」

若手の会会長

西上 幸範 (兵庫県立大学大学院 生命理学研究科)



2010年度は若手の会にとってチャレンジの年でありました。せっかく若手研究者が集うのですから、我々のような怖いもの知らずの、駆け出しの研究者だからこそできる、原生動物学若手研究者のためになる挑戦をしたいと私たちは考えています。そこで、広大な原生動物学の世界の全体を把握することが、個々人の研究を発展させるよい機会になるのではないかと考え、自分たちの研究を共有し、より発展させ、さらにその結果を発信できるような場を設けようと、いくつかの新しい試みを行いました。

まず、年度初めに勉強合宿会を開催しました。山口県岩国市のマイクロ生物館などを利用して、多様な原生生物の世界を理解すると同時に、若手研究者間の親睦を深めることを目指したいくつかのプログラムを行いました。扱う生物や手法も異なる多様な若手研究者が本州全土から総勢27名集まり、ポスター発表や原生生物採集・観察会、懇親会などを行いました。この会を通じて、多くの人が生き物の面白さを思い出し、また様々な研究を理解すると同時に、自分の研究を見直すきっかけになったと思います。2011年度は夏期に東北大学で、このような勉強合宿会をよりパワーアップさせて開催予定です。研究室の新メンバーも引き連れて是非参加していただければと思います。

次に、電子版雑誌『原生動物園』を創刊しました。原生動物は形や色、その運動も多様性に富み、見ていて飽きることがありません。私たちの愛する原生生物の魅力を、研究者はもちろん一般の方も含めて多くの人に伝えたいと思いますが、現在、原生動物をメインで扱った雑誌は存在しません。そこで、若手研究者の英知を終結させた雑誌を、自分たちで創刊することにしました。内容は、一般の方だけでなく研究者の方にも役立つものになったと自負しています。1 CDあたり350円と格安なので、まだ手に入れていない人は是非購入してください。また、身の回りに生き物好きな方がいたら宣伝してください。現在、この雑誌のvol.2を作成中です。vol.1の執筆は主に若手の会役員で行いましたが、vol.2からは自分の生き物を自慢したい、様々な若手研究者に記事を書いてもらいたいと思います。興味がある方は早川昌志(masashi@stu.kobe-u.ac.jp)まで連絡をお願いします。



例年、若手の会では原生動物学会大会においてワークショップと勉強会、フォトコンテストを開催してきました。昨年度ワークショップ・勉強会では、ゾウリムシ、アミミドロ、放散虫、粘菌といった様々な生き物を異なった手法で研究している方々に講演していただきました。専門外の生き物や専門外の手法を用いた実験は多くの人に驚きや発見を与えたのではないかと思います。フォトコンテストは今年度からビジュアルコンテストに進化して、静止画だけでなく動画作品のエントリーも可能になりました。しかし意外なことに今年度唯一の静止画作品が最優秀賞となり、逆に綺麗な静止画の魅力について考えさせられる結果となりました。

私たち若手の会は今年も研究者はもちろん、一般の人にも「原生動物ってオモロイ」と思われる研究、活動を発信すべく日々活動しています。今後も多くの人が原生動物の魅力に触れられるような面白い企画を行う予定です。

最後になりましたが、このような、時には無鉄砲にも思える、私たちの活動を温かい目で見守ってくださる先生方に感謝します。今後とも、ご指導ご助言よろしくをお願いします。



茨城大会フォトコンテスト最優秀作品



ブレファリスマ、ミドリゾウリムシ、アメーバ、クラミドモナスを使って万華鏡を作ってみました！カラフルなミドリゾウリムシとブレファリスマが良い雰囲気を出していますが、意外にも無色なアメーバが複雑な模様を描いて健闘しています。この写真を撮るのに大量の原生動物を入れたので、観察中は原生動物達がかなり揉めていました。アメーバが周囲の原生動物を、ブレファリスマがクラミドモナスを片っ端から食べようとするので激しいサバイバルが繰り返されていました。自分よりも大きいブレファリスマを食べようと何度も試みるアメーバには脱帽せざるを得ません。

谷口 篤史 (兵庫県立大学大学院 生命理学研究科)

2011年度 若手の会役員

会長	西上 幸範 (兵庫県立大学)
会計	芝野 郁美 (京都大学)
編集長	早川 昌志 (神戸大学)
役員	末友 靖隆 (マイクロ生物館)
役員	福田 康弘 (東北大学)
役員	久富 理 (富山大学)
役員	松原 立真 (筑波大学)
役員	氏弘 一也 (広島大学)
役員	池淵 馨 (山口大学)

事務局からのお知らせ

会員の皆様へお願い

所属、連絡先、メールアドレス等に変更がある方は、必ず、事務局までご連絡ください。平成22年度の総会で、経費節約のため、ニューズレター(pdfファイル)をメールに添付して配布することが承認されております。今後、益々電子媒体を用いた情報発信が増えてくると思われまますので、メールアドレスを登録して下さい。是非、ご登録をお願い致します。

学会賞・奨励賞の推薦について

学会賞と奨励賞に関する学会の内規は当学会のホームページと原生動物学雑誌に明記されております。また、昨年の評議員会で、会員の中から広く候補者を募るという目的で、「中堅」にこだわらないことが承認されています。多くの皆様から、御推薦を賜りますようお願いいたします。

学会賞候補者は、必要書類(履歴書・研究業績リスト・会員歴・主要論文別刷 5編)を各3部用意し、推薦者を経て会長へ提出して下さい。奨励賞候補者は必要書類(履歴書・本学会での発表リスト・会員歴・論文別刷等参考になるもの)を各3部用意し、推薦者を経て会長に提出して下さい。推薦者は上記書類に加えて推薦理由書をつけて下さい。なお、奨励賞候補者の応募資格は6月末日で満35歳以下の方で、自薦も可能です。申請書類は、郵送でも、pdfファイル(電子メール)でも受け付けます。推薦の締め切り：6月末日

事務局 堀 学 E-mail: mhori@yamaguchi-u.ac.jp (〒753-8512 山口大学 理学部 生物・化学科)



編集・刊行 日本原生動物学会 編集局

〒630-8528 奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学内 (編集委員長: 石田 正樹)
Tel / Fax: 0742-27-9198 E-mail: masaki@nara-edu.ac.jp
ニューズレター編集担当 末友 靖隆 (岩国市立マイクロ生物館)

ニューズレター20号は学会ホームページからもダウンロードできます。非会員の方への宣伝等にぜひ活用ください。
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsproto/journal/nl-20/NL20.pdf>